



だいの風

日高市立武藏台小中学校

令和8年1月8日 第16号

今年度のキーワード「対話・創造・挑戦・交流・表現」

学校教育目標

- 自立 かんがえる子・じょうぶな子
- 創造 かんどうする子
- 共生 なかよくする子



「一年の計は元旦にあり」

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は、保護者・地域の皆様から教育活動の様々な場面において、温かいご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。今年も目指す学校像「地域に愛され、みんなが笑顔で安心して過ごせる学校」を目指し、教職員一同、子どもたちとともに、未来志向で学校創りを行ってまいりますので、本年もどうぞ宜しくお願ひいたします。

秋馬 信之



さて、児童生徒の皆さん、昔から「一年の計は元旦にあり」と言われています。これは元旦に自分の目標や計画を決めて、一年の見通しを持つことが大切であるという教えです。この言葉は、三本の矢の逸話で有名な中国地方を支配していた戦国武将の毛利元就の言葉に由来するものと言われています。元就は一年、一月、一日、それぞれの最初のときこそが計画を立てるべきであると言い、「何事も最初が肝心」であると自分自身への戒めを含む言葉であったようです。

【毛利元就の言葉】

一年の計は春にあり

一月の計は朔（ついたち）にあり

一日の計は鷄鳴（けいめい）にあり

⇒新しい一年の計画は、その年の初めに

⇒月の計画は、月の初めの日に

⇒今日の計画は、朝早くに立てる

一年の計は一月にあり、一月の計は一日（月の初めの日）にあり、一日の計は早朝にあり、だから一年の計は元旦にあり、となります。何事にも遅れをとったら生き延びることができない戦国武将の厳しさが感じられる言葉です。

ところで、2学期の終業式の日に『1年の計は元旦にあり』と言い、何事も最初が肝心である。だからこそ、新年の始まりにしっかりと目標を立てるように」と話をしましたが覚えているでしょうか。そして今日は、しっかりと目標を立てたうえで、新たな気持ちで始業式に臨んだでしょうか・・・。目標や計画は、具体的で自分のやるべきことがはっきりと分かる方が、見通しが持ちやすくなると言われます。目標実現のため、見通しを持ちやすくするために、以前研修会で講師の方に教えていただいた、私が実践している次の4点を紹介します

- ①「～する」とか「～ができるようになる」といった表現にすることで、肯定的で前向きなイメージをもつことができる。
- ②目標は数字を入れることで、より具体的な目標を持つことができる。
- ③計画は、「何を」「いつまでに」「どのレベルまで」「どんな方法で行うのか」を具体的に考える。
- ④目標や計画内容は見える化し、より良い方法があれば時には変更しながらコツコツと努力を積み重ねる。

今日、実践したことが足跡となり、その積み重ねが明日に繋がります。まだ、明確な目標を立てていない人は、元就の言葉を思い出してください。最初が肝心です。遅れを取る

ことのないよう、強い意志をもって目標実現のために頑張ってください。

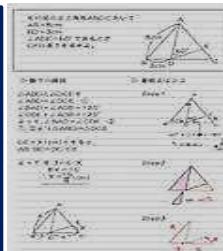
ちなみに私の今年の目標は「体力維持増進！かわせみマラソン自己新記録樹立と、武藏台小中学校の教育課程を軌道にのせること」です。

家庭学習の充実に向けて ①自宅学習システムの更なる活用を ②家庭学習ノートの充実を
③学習時間の確保を

eライブラリ(自宅学習システム)を活用しているでしょうか。このeライブラリは、子どもたちの学習習慣の確立や学力向上を目指し、日高市では平成29年度から運用を行っています。eライブラリはWi-Fi環境にあれば、1年生(小1)から9年生(中3)までのドリル教材(国語・算数・数学・理科・社会・英語)等を学力や学習の進度など、個々のニーズに応じて自宅で学習ができるので、家庭学習の充実を図るうえでの重要なツールとなっています。しかし、ここで押さえておきたいことは、自宅学習システムは、あくまでも「毎日の家庭学習の補助」であるということです。大切なことは毎日の地道な家庭学習、自学自習したことを「ノートに書く」ことです。学習したことをしっかりとノートに書く習慣をつけてください。

【家庭学習：ノートに書くことのメリット】

- ・ノートに書くことで、思考の曖昧なものが明確になる。
- ・ノートに書くことで、思考を整理し構成力を鍛えられる。
- ・ノートはいつまでも、振り返ることができ定着を促す。
- ・ノート学習を積み重ねていくことで、学習の足跡が残り満足感を得ることができ、学習意欲につながる。



また学力向上は「学習の量」×「学習の質」といっても過言ではありません。学力向上が学習の量と学習の質の積だとすれば、一定の学習量は必須です。当然、一方が「ゼロ」であればその積も「ゼロ」になりますが、学習の質が同じであれば、学習量が多いほど当然学力向上に効果があるわけです。下図は令和7年度埼玉県学力・学習状況調査「児童生徒質問調査」からの抜粋です。本校児童生徒の「土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日あたりの勉強時間が1時間以内・全くしない割合」です。

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)
<R7埼玉県学力・学習状況調査より:1時間より少ない・全くしない割合> 4月～5月実施

	4年	5年	6年	7年	8年	9年
県	45.9	45.1	45.3	36.2	37.8	29.9
本校	51.8	45.2	38.5	31.0	62.1	35.1
比較	5.9	0.1	▲6.8	▲5.2	24.3	5.2
R6年度	57.7	52.6	35.3	36.3	50.0	34.4

4年生は県平均より約6ポイント高く、5割以上が学習を「1時間以内より少ない・全くしない」ことが分かります。5, 6年生は、昨年度より「1時間以内より少ない・全くしない」割合が約10ポイント以上減り、学習する時間が増えました。後期課程の7年生は昨年度より「1時間以内より少ない・全くしない」割合が約4ポイント、9年生は約15ポイント減り学習時間が増えました。しかし8年生は「1時間以内より少ない・全くしない」割合が6割を超え、学習をしない割合が増えたことが分かります。学習の質はもちろん重要ですが、まずは、学習時間を一定量確保する必要があります。以前実施した全国学力・学習状況調査のクロス集計では、学習時間が短い子どもに比べ、長い子どもはそれぞれのテストの平均正答率が高い傾向にあると結果が出していました。

勉強が分からぬより分かる方がいいし、できないことよりできることが多い方が楽しいはずです。できるようになるには、やはり地道にコツコツ勉強をすることです。そのためにも学習時間の確保が重要です。まずは家庭学習を一日の生活の中でルーティーン化し学習習慣をつけましょう。保護者の皆様、今後も家庭学習の充実に向けて指導していきますので、ご家庭におかれましてもご協力をお願いします。